

○事業所名	チェリーヒル		
○保護者評価実施期間	2024年12月20日		～ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年12月20日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの立案を固定化しないよう職員全体で行っている	同じ内容の活動プログラムが翌月、翌々月続いてしまわないよう2・3か月間を空けてプログラムを組み立てている。複数の職員が毎月交代をしながら工作・レク・おやつ作りの3つに分かれ内容を考えている。日々の生活の中で子ども達に意見を聞き活動内容に充実させている	法人内に施設が複数あるので、年齢の壁を越えた関りができる良い機会なので企画していきたい。活動プログラムの内容充実の為外部で行っている研修等に積極的に参加していきたい
2	職員の資質の向上を行うために、研修を充実させている	正規職員は毎月オンラインでの研修を行っている。受けた研修資料等非正規職員が閲覧できるようになっている。法人内の他施設職員の研修報告書も職員全体で閲覧している。正規・非正規関係なく積極的に研修に参加をさせてもらえるので研修機会は充実している	研修資料や報告書の閲覧だけで終わらず、学習してきたことを現場に落とし込み活かせるようミーティング時に報告を兼ねて小学習会を行っていく。支援に関するカンファレンスを行う機会がないので行っていきたい
3	家庭とだけでなく、相談支援事業所や学校等と積極的に情報共有を行っている	法人内に相談支援事業所があるので、細かい情報共有がスピーディーに行える。相談支援員が支援の様子や子どもの様子を観に来てくれるのでその時その時の子ども達や保護者の方の状況に合わせた支援が行いやすい。法人内にヘルパー事業所、短期入所の施設があるので状況に合わせて支援のコーディネートが行える	法人内に生活介護施設や就労支援事業所・グループホーム等があるので保護者の方達が将来の見通しが持てるよう見学会や相談会を行っていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	基準的には問題がない広さだが、実際に生活をしていると利用定員と指導訓練室等スペースの関係が適切でないと感じる時がある	施設自体が福祉施設・生活をする施設として建てられた建物ではないのでできるだけ生活スペースとして機能するよう努力はしている。クールダウンスペースがないので代わりに物を用意する必要がある	グループ分けをして公園へ出掛ける等して室内で過ごす人数を少なくし生活スペースに余裕が出るよう工夫している。クールダウンスペースについては簡易テントや家具の配置を変えスペース作りに努めている
2	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされていない箇所がある	施設自体が福祉施設として建てられた建物ではないので、バリアフリーとは言えない作りになっている。長年身体不自由の方の利用がないので必要に迫られず対応ができていない状態	後付けでバリアフリー化できる部分(手すり等)は改修工事を行っているが、まだできる部分がないか職員間で定期的に話し合いをしていく
3	支援終了後に職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有できていない	帰りの送迎の関係や、正規・非正規の勤務終了時間の違い等により支援終了後に時間を設けることができない。正規職員同士・非正規職員同士、退勤時間が同じ職員同士で振り返りや気づいた点等を共有している	緊急で共有が必要な問題が起きた時はグループline等で情報共有をしている。情報共有ノートの書き込み&チェック、グループline、保育前のミーティングに重点を置き職員間のコミュニケーションを引き続きとっていく。非正規職員の勤務時間の見直しも考えていきたい